

校長だより

～ 卒業する君へ～

平成 24年3月1日

校長 與那覇 健 勇

固いきずなに思いを寄せて
語りつくせぬ青春の日々
時には傷つき時には喜び
肩をたたき合ったあの日
あれからどれくらい経ったのだろう
沈む夕日をいくつ数えたらう

故郷の友は今でも君の心の中にいますか

長淵剛の「乾杯」です。読谷高校で過ごした3年間はこれから皆さんが年を重ねていくとともにその重みを増して、この歌のように素晴らしい思い出になっていきます。

皆さんがたくさんの夢と希望を抱いて初めて読谷高校の門をくぐった日。覚えていますか。多くの人に祝福され高校生になったあの日を覚えていますか。真新しい制服。初めてのバス通学。アイデアの詰まった初めて作ったオリジナルクラスTシャツを着て、迎えた新入生歓迎球技大会での異常な程の盛り上がり。クラスの仲間が初めて一体となった出来事等よみがえってくるでしょう。

高校生になったから中学とは違った部活動に入ろうと果敢に挑戦したA君。ボリュームいっぱい音量で耳がちぎれるくらいストリートダンスに狂喜乱舞したBさん。1日も欠かさずゼロ校時を受け続けて国立大学合格を決めたC君。一度もレギュラーにはなれなかったけど一番皆に愛されたDさん。モヒカンカットでどこからも目立ち生徒指導部のお世話になったE君。自称運動音痴だが優れた感覚を持つ天才画家のF君。暗いうちから登校して校門の清掃を欠かさなかったG君。マクドナルドの本社員より売上げ、接客日本一になったHさん。自分の属する部活動では常にヒーローだったI君。自転車の二人乗りで校庭を乗り回したJさん。図画コンクールの数々の賞を総なめしたKさん。・・・

皆、一人一人が、思い思いに、かけがえのない、それぞれに輝いた一コマ一コマがみーんな「青春」でしたね。

卒業していく皆さんが、決して忘れてはならないものがあります。それは、皆さんをここまで育ててくれた周りの愛の深さです。

忘れてはならないものがあります。それは、それらの愛に感謝する心です。

忘れてはならないものがあります。それは、感謝の心で他人にも接する態度です。人は誰でも相手が自分に接する態度以上の心で相手に接することができること程立派なことではありません。そういう態度がその人の「徳」を作っていきます。

さあ、3年間で、たっぷりと満水になったエネルギーで自分の世界に羽ばたいてください。

乾杯 今 君は人生の大きな大きな舞台に立ち
はるか長い道のりを歩き始めた
君に幸せあれ 君に幸せ あーーーれーーー。